

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1171000282		
法人名	寿エンタープライズ		
事業所名	グループホーム八潮		
所在地	埼玉県八潮市緑町1-12-8		
自己評価作成日	平成29年1月15日	評価結果市町村受理日	平成29年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成 29 年 2 月 1 日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居者様、及びご家族様に安全かつ安心して過ごして頂けるよう施設内の安全管理、また地域との連携強化に努めている。近隣医療機関との連携を密に取り、緊急時には的確な指示を受けられたり、迅速な受入れをしていただけるよう、働きかけている。日常的に近隣への散歩や日光浴に力を入れ、ご近所様との挨拶や会話を通じて、グループホームや認知症の方の理解を深めていただいている。ご家族様はよく面会に来られる為、現況をよく相談できたり、ご意見を頂戴できたりしている。また昨年からは公共のバスを利用して食事に出かけたり、市内で行われているコンサートを観に行ったりして社会参加が出来るよう努めている。玄関には鍵をかけずに、利用者様が自由かつ安全に出入りできるよう、さりげなく見守りに徹している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

日々のケアの中で課題が生じた時には、職員の都合ではなく、利用者の立場で考えることが職員の中で当たり前になっている。自分の意思で玄関の出入りが自由にできる暮らしを支援する為には、常に利用者の行動を気にかける職員の連携体制が必要であるが、その大変さの中でも、利用者に見張られ感を与えないよう、見守りは少し離れたところからさりげなくを心掛けている。利用者は、玄関先で日向ぼっこをしたり、花の世話をしたりするうちに、隣近所の方とは、気軽に話ができる馴染みの関係となった。また、利用者が地域の社会資源と繋がりがながら暮らすことを積極的に支援しており、今年度は、公共バスでの移動を取り入れて外食に出掛けたり、ボランティア団体からのお誘いを受けて、国際交流の催しに場に出向き、地域の方と民族衣装の試着を楽しむこともあった。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1・利用者様が笑顔で居られるように不安を軽減し不安にさせません。2・施設・職員にとって都合の良い介護は行いません。施設理念を申し送りの時職員一同で唱和をし意識付けをしている。	事業所理念は、毎日の申し送りで唱和することで浸透させている。会議の中で、事例をもとにケアの方法が、職員の都合になっていないかを確認したり、まず職員自らが笑顔でいることを大事にして実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩・買い物または地域傾聴ボランティア・地域イベント等に参加する機会を設け、地域の一員として交流をしている。	玄関先の花の世話をしたり、日向ぼっこをするうちに、隣人とは、境界の柵越しに気軽に話をするようになった。地域のボランティア団体と交流があり、コンサート、外国人との交流会等に利用者も参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事や家族会または地域イベントに参加する機会を設け、介護職員と入居者との関係の中から認知症の方との接し方や支援の方法を学べるように工夫をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、近況報告を行うと共に業務や運営に関する意見や要望等の意見交換を行っており、その内容は業務カンファにて職員に伝達をし、適宜改善するようにしている。	家族が参加しやすいよう行事と同日開催することが多い。家族の提案で利用者が得意であるギョーザ作りの計画が実現したり、事業所で古新聞がたくさん必要であることを相談し、協力してもらえるようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、入居状況などの報告に伺い、相談や助言を頂きながら質の向上に活かす等、常に連携を取りながら施設運営を行っている。	市主催のグループホーム会議があり、市の取組み等の情報を聞いたり、意見交換をしている。これをきっかけに、新規グループホームから見学依頼を受け、ボランティア団体を紹介する等の協力関係構築に繋がった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	接遇マナー、身体拘束廃止委員会を設置し、事例等を用いながら気付きにくい拘束等の勉強会を行ない、知識と対応方法の習得に取り組んでいる。	接遇、身体拘束廃止の委員会を設置している。毎月の会議で事例紹介をしながら身体拘束に関する理解を深めるための説明と代替の対応策について検討している。職員の手間が多少増えても、理念にある職員の都合を優先しないことを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	接遇マナー向上委員会を通して、「利用者様は人生の先輩」であり、尊敬の気持ちを持ち接しなければならぬ事、言葉一つからも虐待に繋がる事を伝え防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は必要とする入居者がいない為活用されていない。講習会などに参加し、学習の場を設けるよう努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書等だけでは分かりにくい箇所については別紙を用いて説明すると共に、不明な点については繰り返し説明し納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の表情・仕草から情報を得るまたは面会に来られたご家族と話をする際に意見等を頂き、話し合いを行い改善に努めている。	家族からは、面会や運営推進会議、プラン変更の説明時に話を聞くことが多い。直接話ができない場合には、手紙等別の方法で連絡をしている。外出の希望が最も多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見の言い易い職場作りを心がけ、業務カンファ等でよい提案・意見を反映させている。	1人1課題を会議のルールとしたり、発言の少ない職員に声をかけたりする等、全職員が、希望や意見を管理者に言えるよう配慮している。現在、利用者の重度化に向け、職員の役割分担についての提案を受けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社負担での講習や各種資格手当を設けると共に、休日日数(年間120日)や、シフトの融通性をもって、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外の研修でも、必要であれば場合によって会社負担で講習に参加出来たり、OJTとして先輩職員が直接指導を行い、なるべく個々の能力や希望に添うように機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市役所が主催している市内グループホームの会合に参加し、事業者同士の連携を図り入居者の受け入れ先の相談などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者と良く話し、今の考えや希望を聴き、心配なことがあれば説明をし納得、安心して頂けるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの要望や相談を伺い適宜な助言、提案をさせて頂き、意見や要望など話しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者とご家族が必要とされておられるサービスを話し合いの中から見つけ、当施設において対応が可能か判断をし、きちんとお伝えし対応のできないサービスについては、社外のサービスを提案させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者毎に出来ることを見つけ、掃除や料理の手伝い、レクリエーション等を一緒に楽しむよう心掛け、家族の一員として生活を共にする者同士の関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に入居者の様子をご家族にお伝えし、ご家族と共に考え介護を行う。その都度、職員を含め話し合い関係構築に心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのお店などに買い物に出掛けられるよう支援をしている。ご家族や友人の訪問は、居室にて対応。地域傾聴ボランティア来所時、フロアにて、入居者のお知り合いも多く、昔話を楽しまれておられる。	生活歴を把握し、以前利用していた店で買い物をしたり、外出の際に以前住んでいた辺りを通るようにしている。友人の来訪時は、居室でゆっくりしてもらい、親戚の家を訪問する等遠方の外出は家族にお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、日常会話やレクリエーション時には職員が加わり良い関わりが出来るよう、孤立の無いよう配慮し支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居者やご家族にも今迄同様、行事のお誘いをしたり、退去後の様子を伺ったり、場合によっては相談に乗り助言をさせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者とお話し希望等をお伺いしているが、お話の難しい入居者については、仕草や表情などから察し、その時に最適と思われる支援を実施している。	言葉ではうまく伝えられず、心のうちを話していない場合もあることを頭に入れて、希望や意向を検討している。入浴時の会話やホワイトボードの利用等、個々の状態にあった方法で把握し、情報は共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のサマリーや既往歴、またはご家族等からの情報を活かし、さらに入居者のお話の中から、今までの生活を把握し、生活援助の参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者毎の心身状態の変化に気を配り、日々の申し送りやケアカンファなどで検討し、ケアに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的には必要に応じてケアカンファを職員と共にしている。ケアマネージャーが中心となり、ご家族からの意向も聞き入れ介護計画を作成している。	入居すぐは、利用者が事業所に慣れる事と利用者の状態を知ることが必要な為、まず暫定的な計画を作成し、次のカンファレンスで細かく見直しをしている。医師、家族、職員から意見を集めて反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別生活記録に記入。申し送りノートを活用し、常に職員間で情報を共有しながら実践の見直し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に最も必要なサービスが何かを的確に把握し、当施設内にて可能な限りのサービスを行うが、出来ないサービスについては、社外サービス等をご家族に提案している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	八潮メセナや楽習館で行われたイベント等を利用して頂きました公共のバスを利用し出掛けたり、多くの入居者が安全で楽しく参加できるよう支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科往診・週1回の訪問歯科の医療支援を実施。地域馴染み深い病院のため入居者及び当施設は安心をし医療を受けている。	現在、内科は、全員協力医療機関対応となっているが、希望する場合は、かかりつけ医の受診を選ぶことができる。透析が必要な場合は、連携医療機関に相談し、適切な医療が継続できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師の協力により日常の健康管理等の相談をし、ケアに対してのアドバイスや指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、職員が面会に行き入居者に安心して頂いたり、病院関係者との情報交換や相談に努め、退院時の受け入れがスムーズに出来るよう、そして退院後の指導を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期医療を視野に入れ当施設で出来る事、出来ない事を明確にした上で方針をまとめ、ご家族への説明や入居者の希望を伺い実施する。現状は個々の状態に添った支援を、ご家族や医師と相談しながら決定している。	家族には、入居時に、重度化した場合に事業所としてできる事、出来ない事を説明し、同意を得ている。利用者の状態変化は随時家族に報告し、医療が必要となる状態や時期については、医師から直接説明を聞く機会を設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、統一された方法で定期的に訓練を行い、実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に夜間設定を含む防災訓練を行い、実施時には消防署にも報告を行い助言を頂いている。また、消防署は近隣にあり、連携が取れているため安心である。	全員が昼夜問わず避難誘導ができるよう、訓練に参加出来なかった職員は次回必ず参加できるように配慮し、ボランティア来訪時にも訓練を実施した。食料、防災頭巾、毛布、懐中電灯等の防災用品一式を備えている。	現在は、火災を想定した訓練が多い為、火災、地震、水害等いろいろな災害を想定した訓練を実施し、災害対策がさらに強化されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとり、人生の先輩として尊敬をし、丁寧な言葉使い、お話しする内容にも配慮をし入居者の尊厳を傷つけないよう支援している。	敬いの気持ちを持つことを理念としている。トイレ、入浴時の羞恥心への気遣いを忘れないようにしている。利用者間の不本意な話題に関しては、職員が間に入って話題を変えるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや気持ちを自然に表せるようにしご自身で決定をできるよう心掛け、表せない入居者に対しては表情や仕草などから思いを汲み取り自己決定出来るように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日程は決まってはいるが、介護者本位にならないようにし、一人ひとりのその日の希望に添いながらゆったりと時間を過ごすよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族のご協力を頂き、四季に合わせたご自宅にある洋服をお持ち頂き、外出時や当施設内での行事の際、装いやお化粧品にも気を配れるよう支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳後、入居者に献立を説明し皆で「いただきます」をしている。賄いは職員中心ではあるが食前・食後のテーブル拭きなどできることをしている。	準備は、できることを一緒に行い、集団生活の連帯感と利用者の役割としての観点から、必ず「いただきます」のかけ声で食事を開始している。季節の食を大事にし、正月にはおせち料理を雰囲気よく並べて提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者毎の健康状態に配慮し、水分摂取量や召し上がられる食事量を調整し、さらにその日の体調や献立に合わせてお粥や刻み対応し栄養、水分量の確保ができるよう支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者毎の能力に応じご自身で口腔ケアを行って頂き、その後職員が確認、不足しておられる部分のお手伝いをさせて頂き、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、入居者毎の排泄パターンを読み取り、また表情や仕草を読み取り声掛け誘導をし、トイレで気持ち良く排泄が行えるよう支援している。	事例については、その都度申し送りで共有し、その後、困った原因とそれに対する対応について話し合っている。職員の都合ではなく、利用者の状態や時間帯に合わせて、使用するパットの種類を変えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、水分量、食事などに気をつけ便秘の予防や自然排便が出来るよう心掛けをしている。便秘対応としては、ケアカンファをし入居者毎に合わせ最終的に便秘薬の使用をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	当施設内での入浴時間に制限はあるが、希望によりいつでも入浴の出来る体制を整えている。入浴拒否がある場合は無理強いをせず出来るだけ本人の希望やペースに合わせて入浴できるように努めている。	タイミングを見計らい、1人30分程度の時間をとって、ゆっくり入浴できるようにしている。入浴を希望しない利用者には、清拭等で衛生保持をし、無理強いはいしない。声掛けする職員を変えたり、時間をおく工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者毎の休憩時間を取り入れながら、日中活動的に過ごして頂けるようレクリエーションをし夜間安眠ができるよう生活のリズム作り心掛けをしている。その時々状況を観察し休息の声掛けをさせて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師の指示のもと、処方内容、効果を確認し、処方変更及び往診受診内容を、各個人別に受診記録を記入し職員全員が把握できるようにし、処方変更投薬後の体調変化に十分注意をし、記録を残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者毎の出来ることを把握した上決まった役割を持ち、その時の体調や気分々に合わせ実施して頂いている。無理の無いよう能力や嗜好に合ったレクリエーションの提供を考え参加して頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候・体調に合わせて散歩や外気欲を日課としている。行事に外食や郊外へ出掛ける機会を作ったり、本人の希望に出来るだけ添えるようご家族のご協力を得ながら美容室や外食に出掛けて頂いている。	玄関を施錠していない為、利用者は外に出たい時には自由に出ることができる。職員は、そとついて行くが、見張られている感じを与えないよう、少し距離をおき、さりげなく見守りをしている。今年度は、公共のバスを利用し、食事に出掛ける支援も実現した。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じ相談し誤解や問題が起きないように対応している。ご家族と相談の上小口としてお預かり管理させて頂き必要時にお出したりと本人の要求にお答えし支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人及びご家族の協力・希望があれば電話などをいつでも掛けたり、とりつないだりしている。また、手紙も本人希望があれば投函したり返事が来るように配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には季節の花、畑には農作物を育て収穫をし、年間で楽しむことが出来る。季節・風物詩のわかるもの、入居者の作品等を廊下に掲示をし目でも季節を感じて頂けるように工夫をしている。	ご飯が炊ける匂い、調理の音は慣れ親しんだものであり、それを全員が感じられる様、各ユニットで調理をしている。玄関先には、季節ごとに花を植え、花の好きな利用者が自由に水やりをしたり、日に何度も観察したりできる環境を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にてお休みになられたり、玄関先にベンチを設置し自由に外気浴のできるようにしている。またフロア席にも入居者同士の関係を考慮し居心地の良い場所としての提供に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際に愛着のある家具や使い慣れたものを本人とご家族で相談をされ持ち込んで頂き、居心地の良い環境作りをしている。	机、テレビ等それまでの生活で使い慣れたものを持ち込みしてもらっている。ベッドの位置は、個々にあった動線を考慮して決め、快適な睡眠の為、就寝時の照明は、利用者の生活歴、好みに合わせている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身の居室及びトイレ等わかるよう表示等し、危険と予測されるものを排除し安全に自立した生活が行えるよう環境作りに心掛けている。		